

令和7・8年度
羽生市教育委員会・羽生市教育研究会委嘱

学 習 指 導 案 綴

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業改善
～基礎基本の定着と学習意欲の向上～



令和8年10月28日（水）
羽 生 市 立 岩 瀬 小 学 校

第1学年1組 算数科学習指導案

令和8年10月28日（水）第5校時

授業者 教諭 鷺谷 美晴

在籍児童数 26名

活動場所 1年1組教室

1 単元名 ひきざん

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第1学年の目標及び内容A「数と計算」の指導事項(2)「加法、減法」を受けている。その内容は、以下のように位置付けられている。

第1学年 A 数と計算

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

(エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

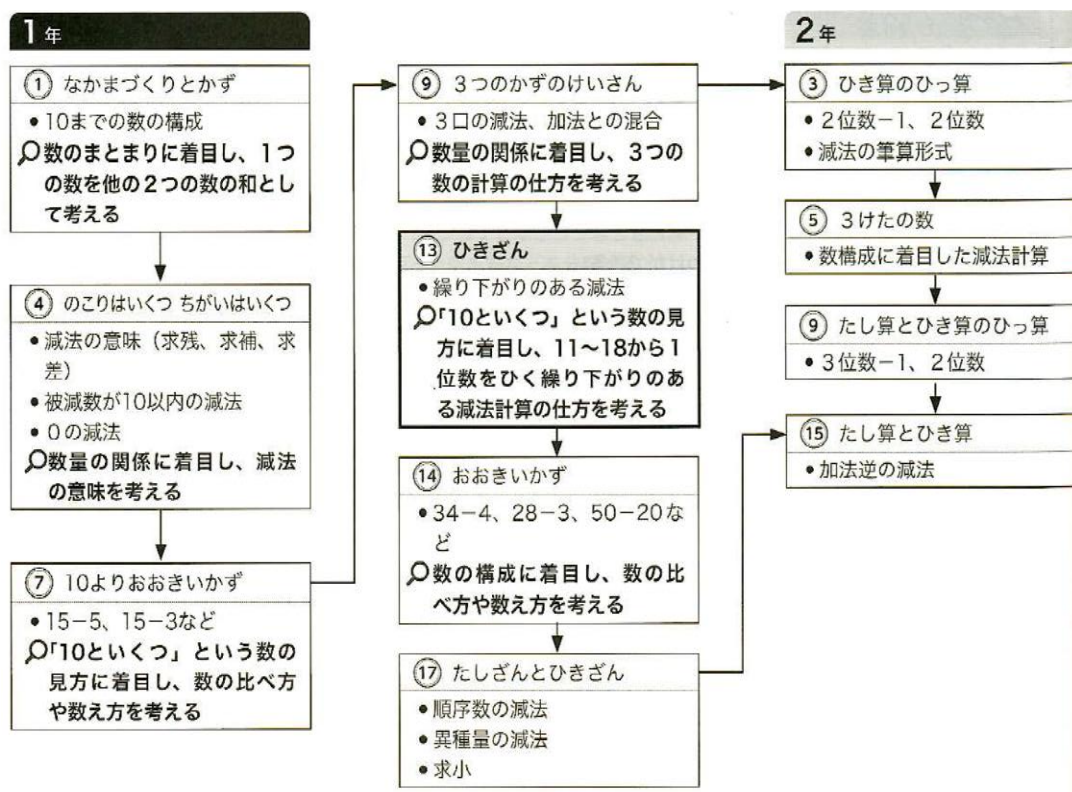
(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

本単元では、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について理解し、それを用いる力を養う。すなわち、「10といくつ」という数の見方や計算の意味に着目し、新たな数範囲の計算の方法について考える力、及び考えようとする態度などを養うことをねらいとしている。

「加法と減法」については、1学期に「なかまづくりとかず」において10までの数の構成を学習した。次に、「あわせていくつ ふえるといくつ」において加法の意味（合併、増加）を学習し、「のこりはいくつ ちがいはいくつ」において、減法の意味（求残、求補、求差）を学習した。

そして、第2学年の加法逆の減法、減法逆の加法、減法逆の減法へとつなげていけるようにする。

本単元の系統の前後は以下の通りである。



(2) 児童観

本学級の児童は、学習に対して前向きに取り組む一方で、個別支援が必要な児童が複数名いる。

本単元を指導するにあたって、児童の実態を把握するために、レディネステストを行った。結果は次の通りである。

【レディネステスト】

調査日 令和8年10月5日 調査人数26人

問題	正答（正答数）	誤答例
1 ひきざんをしましょう。		
① $8-5$	① 3 (25人)	① 13 (1人)
② $10-3$	② 7 (26人)	
③ $14-4$	③ 10 (24人)	③ 12 (1人) 4 (1人)
④ $17-2$	④ 15 (24人)	④ 14 (1人) 18 (1人)
⑤ $10-7+2$	⑤ 5 (18人)	⑤ 19 (2人) 15 (2人) 1 (1人) 2 (1人) 9 (1人) 無回答 (1人)
⑥ $13-3-1$	⑥ 9 (18人)	⑥ 12 (3人) 19 (1人) 2 (1人) 1 (1人) 5 (1人) 無回答 (1人)

2 □にかずをかきましょう。 ① 17は□と7です。 ② 15は10と□です。 ③ 10から9をひくと、□になります。 ④ 10から4をひくと、□になります。	① 10 (24人) ② 5 (24人) ③ 1 (25人) ④ 6 (23人)	① 18 (1人) 1 (1人) ② 10 (1人) 20 (1人) ③ 無回答 (1人) ④ 14 (1人) 61 (1人) 無回答 (1人)
3 じどうしゃが10だいとまっています。 5だいでていきました。 あとから3だいはいつてきました。 ぜんぶでなんだいになりましたか。	しき $10 - 5 + 3$ (16人) こたえ 8だい (19人)	$10 - 5 - 3$ (3人) $10 - 5$ (2人) $10 + 5$ (2人) $10 + 3$ (1人) $10 - 3$ (1人) $5 + 3$ (1人) 5だい (3人) 2だい (2人) 3だい (1人) 13だい (1人)
4 12にんであそんでいます。 9にんかえりました。 のこりはなんにんになりましたか。 (未習)	しき $12 - 9$ (20人) こたえ 3にん (14人)	無回答 (6人) 無回答 (6人) 2にん (2人) 5にん (1人) 7にん (1人) 11にん (1人) 17にん (1人)

レディネステストの結果から、次のような児童の実態が考えられる。

大問1について、10までの計算(①②)、「10といくつ」という数の構成に基づいた計算(③④)は概ねできている。しかし、3つの数の計算(⑤⑥)については、約3割の児童ができていない。3つの数の計算方法が定着できていない。

大問2について、数の構成・分解が定着していない児童がいる。

大問3については、3つの数の計算の文章問題である。問題から分かっていることを読み取って、自分で立式するという力が身に付いていない。

大問4については、未習の問題である。約77%の児童(20人)が立式できている。答えについては、約46%の児童(12人)が正答している。

大問3に比べて未習の大問4の方が、立式できている。大問4の方が2つの数であり、文章が短く、問題場面がイメージしやすかったことが考えられる。

以上の点から、計算方法の未定着、言語理解が低く言語を用いた思考が難しいという実態が見えてきた。

絵を見て想像したりブロックを使って操作をしたりする機会を多く設け、思考力、判断力、

表現力等の向上を目指したい。また、文章を読むことが苦手な児童については、一つ一つの言葉を理解しているかを確認しながら、大切な部分に線を引いたり、場面絵や図に言葉を書き入れたりする活動を取り入れながら、理解を促していく。

(3) 指導観

これまで、加法、減法についての指導は、集合数の理解を基盤として、その意味を理解させ、意味と式を結びつけて理解させることに重点を置いて指導してきた。

本単元は、これまでの加法、減法の意味をさらに拡張して、その意味理解を深めようとするものである。本単元で新たに取り上げるのは、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできることである。「10といくつ」という数の見方を基にしてできることの良さに気付かせて指導していく。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業改善
～基礎基本の定着と学習意欲の向上～

(2) 研究の仮説に関する具体的な手立て

仮説1：学びの定着を図る工夫を取り入れれば、基礎基本の定着が図られ、児童が「わかった」「できた」の実感をもつことができるだろう。

【手立て】

10の分解を扱ったいわまるプリントを活用し、前時までの学習内容を想起・定着させることで、本時の学習を支え、「わかった」につなげる。

仮説2：児童が学ぶ楽しさやよさをあじわわせる工夫を図れば、児童の学ぶ意欲が高まり、「わかった」「できた」を実感することができるだろう。

【手立て】

自分でブロックを操作して実感を伴った理解につなげ、自分の言葉で友達に説明することで、考え方を確かにし、「わかった」という実感につなげる。

4 単元の目標

(1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。

〈知識及び技能〉

(2) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ることができる。

〈知識及び技能〉

(3) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

(4) 繰り下がりのある減法計算の仕方について、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら

学ぼうとしている。

〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①合併や増加、求残や求差など、加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ②「10が幾つ」や「10とあと幾つ」という数の見方などを用いると、簡単な場合について、2位数などの加法及び減法ができることを知っている。	①ある場面が加法及び減法が用いられることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。 ②日常生活の問題を加法及び減法を活用して解決している。 ③和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法について、「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。	①加法及び減法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②加法及び減法の場面を身の回りから見付け、加法及び減法を用いようとしている。

6 指導と評価の計画（11時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1小単元 13－9のけいさん				
1	○簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを理解する。 ・13－9の計算の仕方(減加法)を考える。	・知①(行動分析、ノート分析)		
2	○数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を理解する。 ・「10といくつ」という数の見方に着目し、減加法による計算の方法について考える。		○思①(行動分析、ノート分析)	

3	○繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。 ・減数が8や7の場合の計算の仕方を考える。			○態①(行動観察、ノート分析)
4	○繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。 ・減数が9～5の場合の計算の仕方を考える。	○知②(行動分析、ノート分析)		
第2小单元 12-3のけいさん				
5 (本時)	○数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考える。 ・「10といくつ」という数の見方に着目し、減々法による計算の方法について考える。		○思③(行動分析、ノート分析)	
6	○繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)の理解を深める。 ・自分が計算しやすい方法で計算練習や文章題を解決する。	○知①(行動分析、ノート分析)		
第3小单元 かあどれんしゅう				
7 { 9	○単元の学習を日常生活に活用して問題を解決する。 ・計算カードを使ったいろいろな活動を通して、繰り下がりのある減法計算の練習をする。 ・答えが同じ計算カードを集めたり、並べたりして、数の並び方の規則性を見だし、数の関数的な見方にふれる。		○思②(行動分析、ノート分析)	○態②(行動観察、ノート分析)

第4小単元 まとめ				
10	○学習内容を適用して問題を解決することができる。 ・学習内容を適用して問題を解決する。(練習問題)	・知①②(行動分析、ノート分析)		
11	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。(評価テスト) ・テストを通して、学習内容を振り返る。	○知①②(ペーパーテスト)		

7 本時について(本時 5/11時)

(1) 本時の目標

数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすることができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉

(2) 人権教育上のねらい(普遍的な課題「人間関係づくり」)

お互いのよさや違いを認め合い、よりよい人間関係づくりの基礎を身に付ける。

(3) 人権教育上の視点(態度)

人にはそれぞれの考え方に違いがあることを知り、お互いのよさを認め合い、大切にする。

(4) 小中一貫教育の視点

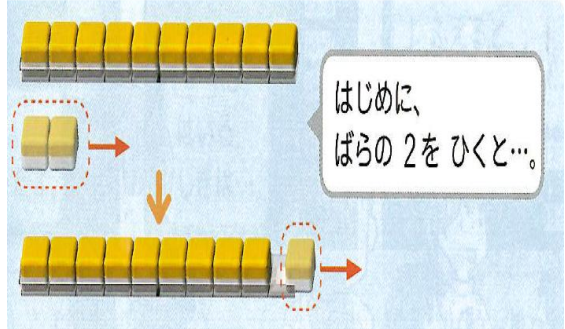
本単元では、11～18から11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について理解し、それを用いる力を育てる。これは、第2学年の2けたのたし算・ひき算、たし算・ひき算の筆算、第3学年のたし算・ひき算の筆算、小数、第4学年の小数、第5学年の分数と小数・整数の学習へと発展する。さらに、中学1年生の正負の数の除法につながることを意識して指導にあたる。

(5) 展開

★人権教育上の配慮事項

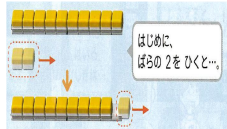
学習活動	教師の発問(◎) 予想される児童の反応(・)	評価規準(◇) 支援(⇒) 仮説にせまる手立て(☆) 指導上の留意点(○)	時間
1 いわまるプリントに取り組む。	◎復習問題に取り組みましょう。	○基礎的な力の定着のために取り組ませる。児童の伸びを教師は把握し指導に生かす。 ☆10の分解を扱ったいわま	3

2 問題を把握し、課題を見いだす。	◎（場面絵を提示して）何がありますか。 ・おかしです。けえきです。	るプリントを活用し、前時までの学習内容を想起・定着させる。 ○場面絵を提示して、問題の場面が把握しやすいようにする。	5
	おかしが12こあります。 3こたべると、のこりはなんこですか。 ◎分かっていることは何ですか。 ・おかしが12個あります。 ・3個食べました。 ◎聞かれていることはなんですか。 ・残りは何個ですか。 ◎どんな式になりますか。 ・$12 - 3$です。		
3 本時の課題をつかむ。	$12 - 3$のけいさんのしかたをかんがえよう。	○既習事項を振り返り、減法が用いられる場面であることを確認する。	3
4 見通しをもつ。	◎これまでどのように考えてきましたか。 ・ブロックを使って考えてきました。 ・さくらんぼ計算をしてきました。 ◎どこから3をとりますか。 ・箱から。 ・ばらから。	☆これまでの学習を振り返り、ブロックを使ったり、さくらんぼ計算をしてきたりして求めてきたことを想起させる。 ○おかしの箱とばらの部分を意識させることで、どこから3をとるかを考えさせる。	3
5 自力解決をする。	◎ブロックやさくらんぼ計算で答えを出しましょう。	○どこから引くかを意識させ、言語化させる。 ⇒箱から引くことを意識させ、これまでの減加法で計算ができることに気付かせ	8

	・ブロック操作や図を用いて、減加法で考える。	る。 ○減加法の考えについては、これまでと同じ計算方法であることを確認する。	
	【ひきたしさくせん】  ① 12を10と2にわけ ② 10から3をひいて7 ③ 7と2で9		
	・ブロック操作や図を用いて、減々法で考える。	○減々法は、減加法と違って減数を分けて、ばらから引くという新しい考えであることに気付かせる。	
	【ひきひきさくせん】  ① 3を2と1にわけ ② ばらの2からひく ③ 10から1をひいて9		
6 それぞれの考えについて話し合う。	◎図を使って、計算の仕方を説明しましょう。 ◎答えを見て、気付いたことは何ですか。 ・答えは同じ。 ◎計算の仕方はどうですか。 ・引いているところが違う。	○ペアで自分の考えを説明させる。 ○それぞれの考えを説明させる。 ☆自分でブロックを操作して実感を伴った理解につなげ、自分の言葉で友達に説明することで、考え方を確かにさせる。 ○なぜばらから引いたのか説明させる。 ★友達の考えのよいところを見つけようとしている。	9

7 本時のまとめをする。	◎今日はどんな計算の仕方が出てきましたか。 ・ばらから引く方法	○2つの計算の仕方の共通点と相違点に気付かせる。 ◇和が10より大きい数になる加法及びその逆のげんぼうについて、「10とあと幾つ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。【思③】 (行動観察、ノート分析) ○新しい計算の仕方でも、答えが出ることに気付かせる。	4
8 適用問題に取り組む。	◎今日学習したことを使って、練習問題を解きましょう。	○本時の学習に関連した問題に取り組ませ、学習内容の定着を図ることで、学習したことを自分でも使えるという実感をもち「できる」につなげる。	7
9 本時の学習の振り返りをする。	◎今日の学習で分かったことや思ったことを書きましょう。 ・ばらから引く方法が分かった。 ・ばらから引く方法を使ってみたら、計算しやすいと思った。	○問題を早く解き終わった子については、チャレンジ問題に取り組ませ、学習内容を活用する楽しさを味わわせることでさらなる学欲の向上をつなげる。 ○次の時間への意欲をもたせる。	3

8 板書計画

	 ④ おかしが12こあります。 3こたべると、のこりはなんこですか。 しき 12 - 3 ⑤ 12 - 3 のけいさんのしかたをかんがえよう。	⑥ ⑦ ⑧ どこから3をとる？ ⑨ 【ひきひきさくせん】  ① 3を2と1にわけ ② ばらの2からひく ③ 10から1をひいて9 ⑩ 【ひきたしさくせん】  ① 12を10と2にわけ ② 10から3をひいて7 ③ 7と2で9	⑪ ひくかずをまとめてひかず、ばらからひくほうほうもある。 ⑫ おかしが12こあります。 4こたべると、のこりはなんこですか。 しき 12 - 4
--	--	--	--

笑顔と挑戦

